

Vol.  
20

Shumei International

# NEWSLETTER



Shumei International is dedicated to improving the human community by restoring the environment, fostering a deep appreciation of beauty and the arts and cultivating leadership among the next generation.

The organization was founded on the philosophy of Mokichi Okada, who taught that cultivating respect for nature and appreciation of the inherent beauty in the natural world will uplift human society and enable a truly balanced and sustainable world.

Shumei International has established programs around the world with a focus on Natural Agriculture.

Shumei International

# NEWSLETTER

Vol.20



【表紙】

自然農法の作物を販売するザンビア自然農法  
開発計画の女性農民



秀明インターナショナルは、1.国際協力 2.環境問題への  
取り組み 3.優れた芸術による人心の向上の3点を基本的  
なプログラムとして実践します。この実践により、個々の人  
間性、精神性の向上を促し、社会へ新しい人生観、価値観  
を提唱したいと考えています。そして、私たち同様の目的を  
持つ世界中の人たち、団体と協力し合い、世界平和に貢  
献していくことを目指しています。



## Special Topics

### 3 ザンビア自然農法開発計画(NADPZ)の近況報告

ザンビア自然農法開発計 代表 バーバラ・ハチプカ

### 10 コロナ禍の中、人々が本当の素晴らしいものを求めて

フィリピン自然農法担当 嶋 智美

### 17 オックスフォード・リアル・ファーマーリング・カンファレンスで 秀明自然農法を発信

#### 18 秀明自然農法から見える生物多様性

秀明自然農法ネットワーク 酒井 賢治

#### 21 農業の魅力を伝えたい

白木 桃子

#### 23 参加者からのQ&A

### 25 震災10年の追悼と鎮魂、そして被災地から感謝と祈りの音を世界へ

秀明太鼓 復興支援コンサート in 釜石市・大槌町

秀明岩手ボランティア担当 多田 立伊

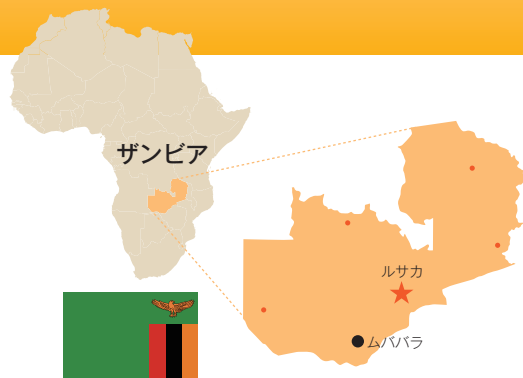






# ザンビア自然農法開発計画(NADPZ)の 近況報告

ザンビア自然農法開発計画 代表 バーバラ・ハチプカ



## 共に働くことで私たちはより強くなる！

2019年8月以来、ザンビア自然農法開発計画(NADPZ)は、新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックのため、自然農法ショーを開催していませんでした。

毎年開催されていた自然農法ショーは、参加する全ての人々にとって何かしら得るものがある欠かせないイベントの一つになっており、2006年に開催して以来、その3日間のイベントには近隣のコミュニティー、その他の地域から何千人もの人々が集まり、それぞれの経験や情報を共有するための有益な場を提供してきました。過去13年間、女性メンバーが集まり、ダンス、歌、料理、スポーツ、農業展示の設置、自然農法についてのコミュニティーメンバーへの教育活動などが行われました。ショーには村長、チーフ、市長、地区コミッショナー、大臣などのVIPゲストも参加しました。また日本からShumeiの若者がショーに参加し、コミュニティーの人々に素晴らしい心温まる太鼓の演奏とカレーを振る舞ってくれたこともありました。

2021年8月はエキサイティングな月であり、ザンビアとアフリカ史の中で民主主義の年として記されることでしょう。ハカインデ・ヒチレマ大統領は、国民を興奮させるキャンペーンと、ザンビアの大統領選挙史上最高の投票率を持って、第7代大統領に選出されました。キャンペーンと選挙は、ソー



今年の自然農法ショーのテーマ



ショーに並べられた農作物





カロモ地域から自然農法を学びにきた女性たち

シャルメディアを通して世代を超えた議論と会話のセンセーションを引き起こし、より多くの若い有権者たちに選挙に対する関心を持たせました。このヒチレマ大統領の勝利は、「私たちは協力すれば強くなれる」という非常に重要なメッセージを象徴しています。自然農法ショーの開催に向けて準備をしていた私たちは、今回のテーマを「共に働くことで私たちはより強くなる!」と決めました。それはコミュニティ参加の強さを象徴しているからです。

8月31日から9月3日まで、無事に2年ぶりの自然農法ショーを開催することができました。今回はムババラ地区のプロジェクトサイトで開催され、何百人もの女性メンバーが会場に集まり、農産物の展示、伝統的な歌や踊りの競技会、スポーツ活動にも参加し、精神とエネルギーはとても高まりました。農業組合員だけでなく周りの地域住民も秀明自然農法について学ぶために、またショーの前向きなお祝いのエネルギーに誘われて多数参加しました。今年のショーには、ムババラ、チカンタ、ペンバの三つの協同組合全ての女性メンバーが参加し、「共に働くことで私たちはより強くなる」という私たちのテーマを再び強調しました。

## 他のコミュニティからリクエスト

ザンビアでの自然農法プロジェクトが開始して16年たった今でも、自然農法について学びたいと周辺の村やコミュニティの女性農民からたくさんのリクエストがあります。現在は年に2回、プロジェクトの紹介と自然農法の実践を含む2日間のトレーニングセッションを行っています。現在の新型コロナウイルスによるパンデミックは、ザンビアの他の地域への自然農法プログラムの拡大を遅らせています。私たち

は、世界中の新型コロナウイルスの状況が制御または解決され、私たちの家、コミュニティ、および国家を皆が一緒に構築するという仕事に戻ることができるように、引き続き祈ります。

ちょうど自然農法ショーの開催中にイテジ・イテジ地域の二人の女性がムババラ地区の親戚を訪ねて来ており、その後自然農法をもっと学びたいと自然農法による野菜の植え付けに参加しました。彼女らはイテジ・イテジに帰り、彼女たちの所属する農民クラブに自然農法を紹介してほしいとの依頼が来ています。

6月はカロモ地域から8人の女性がやってきました。彼女たちは25人のメンバーからなる小さなカロモクラブの代表をしています。私たちは引き続き彼女らと連絡を取り、彼女たちの自然農法の旅を支援できることを楽しみにしています。

自然農法が持つ力、素晴らしさを耳にした、さまざまな地域の女性グループからプロジェクトの紹介を求めるリクエストが多くあり、私たちのコミュニティには自然農法のような持続可能な農業の重要性を理解している何千人もの農民がいることから、将来の発展が期待できます。彼らは情熱を持っており、環境に優しい農法を通して、自分たちとその家族に未来があることを感じていると思います。ザンビアの人々が貧困に苦しみながらも、私たちの惑星の未来とそれを救うことの重要性を気に掛けていることは、私に希望を与えてくれました。来年は毎年恒例の自然農業ショーに、他のコミュニティや組織が参加するのを楽しみにしています。知識と活動状況を共有することで、私たち自身の地域社会に力を与えることができると信じています。





自然農法ショーで伝統的な踊りを披露



職業訓練センター 縫製クラス



大工作業クラスで制作されたベッド



自然農法ショー

## 人材育成 職業訓練センター

2019年にオープンした職業訓練センターは、現在、18歳～25歳の男女それぞれ10名ずつがセンターに通っています。昨年、新型コロナウイルスの影響で授業日数を十分に確保

できなかったため、学期の修了が遅れました。2021年2月1日に授業を再開しました。しかし、2021年4月、冬のシーズンが始まると、ザンビアでは新型コロナウイルスの感染者が急増し、人口当たりの感染者数がアフリカで最も多い国となりました。政府は学校を閉鎖し、ロックダウンを行いました。職業訓練センターも、生徒たちを保護するために再び閉鎖しましたが、2カ月後、無事に再開することができました。

大工作業クラスでは最初のグループは現在1年間のトレーニングコースの途中。現時点で、彼らはベッド、ソファ、椅子、キャビネットなど、さまざまな家具を作ることができるようになりました。

縫製のクラスでは洗える生理用ナプキンのような各種必要とされる製品を作ることを学ぶことにしています。これはマラウイのグリーンマラタ職業訓練センターを訪れたときに





ネットボールチーム（自然農法ショー）



政府から派遣されたクリスピン・ムボジ牧師



5年生の子どもたち



学校農園で自然農法を実施

作られているのを見た製品であり、私たちのコミュニティーでもそれが学べることを楽しんでいます。

## 教育が鍵

2021年2月、地区の教育委員会に2年前より申請していた2人目の政府派遣教師クリスピン・ムボジを迎え、ペンバスクールは再開しました。彼は経験豊富な教師であり、ここに赴任する前、他の二つの小学校で3年間ずつ勤務していました。ペンバスクールでは3年生と4年生のクラスを担当しています。

現在、教室が四つしかないため、最高学年である5年生は、コミュニティーホールで授業をすることになりました。今は、会議用のテーブルと椅子を使用していますが、新しい机と椅子はムババラの職業訓練センターで作成され、完成したらペンバに輸送されることになっています。新しい教室もPTAが2万個の粘土レンガを作成し、新しい校舎の基礎作りが始められています。

この7人の若い才能のある5年生たちは、2015年の開校以来この学校に通っています。彼らは保育園から始め、毎年順調に進級してきました。30人の生徒からなるクラスですが、彼ら7人はカリキュラムを100%理解しているということでこの学年に進級することを許されました。他のクラ





新しい校舎のためのレンガ作り

スメートは、年末までにテストを受け直して、4年生から進級してこの7人の生徒に合流できるかどうか、彼らの学ぶ意欲が確認されます。

2015年にベンバスクールを開校するに当たって私たちの目標の一つは、次世代の小規模農家を育てることでした。基本的なカリキュラムを提供するだけでなく、農業などの課外活動を含めることも重要だと感じました。学校農園の中で、子どもたちが共通の目標を達成するためにコミュニケーションを取り、チームとして働くことが要求され、これにより子どもたちはお互いと環境に対する新しい認識と尊敬を育むことができます。雨季が終わると、4年生と5年生の子どもたちが農園の準備を始めます。彼らは、菜種や白菜など簡単に育てられる野菜を育て、学校の給食プログラムの一環として使用する予定です。また、キャベツ、トマト、タマネギなどのより複雑な野菜も栽培するように訓練され、種の保存方法も勉強していきます。

クリスピン教師は、これまで農業をしたことはありませんでしたが、この学校に赴任して数カ月、学校の農園活動に参加し、収穫のトレーニングをしている女性農民たちと一緒に過ごしたことで、農業を試みたいと思うようになりました。そして、村長に小さな農地を頂けるようにお願いしました。そして彼女の妻もまた自然農法実施を決意し、女性農民クラブの一つに参加しました。

## アートカリキュラム

新しい教師の到着に伴い、PTAと教師委員会は、アートをカリキュラムに追加することを決定しました。これは彼らが長い間やりたかったことでした。実施は、Shumeiからカラーペンやクレヨンなどの画材の寄贈があり可能になりました。さっそく生徒たちは三つの作品を仕上げるように課題



子どもたちのアート作品





を出され、最初の課題は粘土などの天然素材を使用して美しく形作られた動物を制作しました。

そして次の課題は「私の農村生活」と題して絵を描くことでした。子どもたちは自分たちの家や色鮮やかな動物を強調した絵を制作しました。いくつかの絵の中で、子どもたちが友達と遊んだり、家屋の周りの様子が描かれているのが分かります。

最後のプロジェクトでは、種子や葉などの天然素材を使って絵などの作品を制作しました。子どもたちの中にある創造性を引き出した先生方の活躍に祝福を送りたいと思います。今後も、子どもたちの成長していく姿をお届けできたらと思います。

## 校長先生紹介

メアリー・ゴマ、29歳。彼女はムウェンセ・ルアブラ地方で生まれ、チョマ市にあるチュウンドゥ高校を修了しました。若くしてメアリーは自分の情熱が教育分野にあると判断し、バグロリー教育大学の高等教育機関に通い、幼児発達について学びました。現在ペンバスクールで教えながら、彼女はチャリンバーナ大学で幼児教育の学士号を取得することに取り組んでいます。メアリーは2016年10月に私たちのペンバスクールに赴任してきました。ここが地区教育委員会によって彼女に割り当てられた最初の任地だったので、彼女はこの地域にやってきて以来、積極的に自分の役割を果たし、彼女の温かく前向きな笑顔は、学校と女性農民のプロジェクトから大いに歓迎されています。



メアリー・ゴマ 校長先生

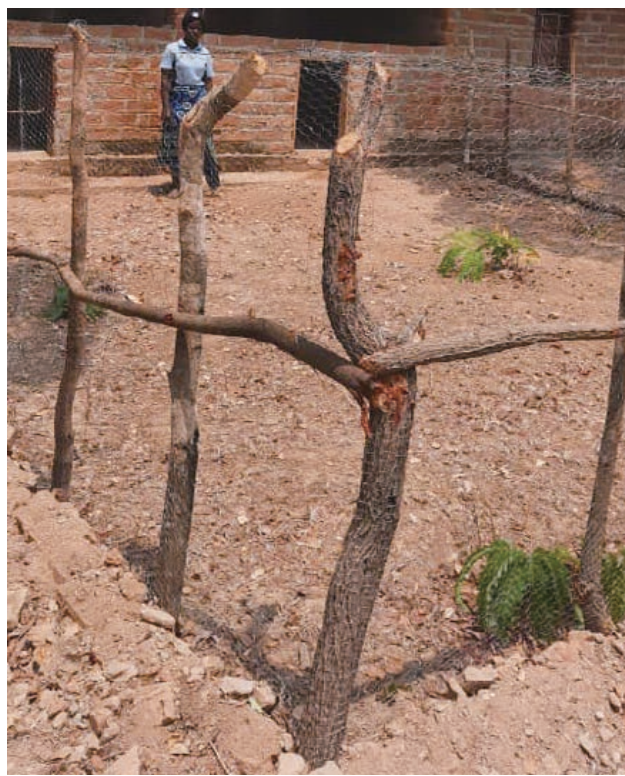
## メアリー・ゴマからのメッセージ

私は子どもたちに関わることが大好きで、子どもたちの人生に前向きな変化をもたらすことができると願っています。教室で自分の情熱を日々注げていることに感謝しています。生徒の学習を飛躍的に伸ばす「きっかけ」を見つけることへの挑戦は、私を興奮させます。多くの先生方が私に感化を与えてくださり、私は彼らのようになりたいと思いました。私はこの学校の成長を願い、その成長の一部でありたいと思っています。私はこの学校が普通の小学校から中学校を含むようになること、そして教育環境に恵まれない地方の子どもたちがさらに高等教育または大学教育へ進む機会を生み出すことを望んでいます。この学校は、生徒だけでなくその家族にも希望を与える強力な基盤と支援環境を作り出すことができると感じています。

## 新たなプロジェクト

### ◎家禽飼育研修

今まで私たちの地域では、病気、ダニやヘビなどの外敵の問題から、養鶏（卵の販売として）を行うことは困難だと考えていました。しかし、このたび私たちは、ホロホロチョウ、ニワトリなどのさまざまな家禽の飼育方法についての研修のために家禽飼育施設の建設が計画され、無事に完成しまし



家禽飼育施設





キノコ栽培の研修を受けた女性農民たち

た。私たちは、ムババラ、チカンタ、ペンバの女性クラブ農民向けに四半期ごとにクラブ家禽飼育研修を実施しています。この養鶏施設は、訓練施設であるだけでなく、訓練を支援する独立事業になることを目指しています。事業が成長を遂げ、余った鳥は家禽に興味を示す近隣のクラブに貸与し、卵はプロジェクトサイトの宿泊施設や近隣のコミュニティに販売する計画です。鶏舎が完成すれば、産卵を目的としてホロホロチョウとニワトリを飼育する予定です。ニワトリの飼育と卵のビジネスを管理する方法については組合メンバーと職業訓練センターの生徒たちに向けて訓練が行われます。この地域のコミュニティ獣医官が、私たちのトレーニングを支援すると申し出てくれており、プロセス全体に関与してくれます。

#### ◎キノコ栽培研修

今年の2月、二人の自然農業トレーナーが首都ルサカを訪問し、小規模キノコ農家ニコシラチ・ルズィカニ氏からキノコの栽培法を学びました。3月、ルズィカニ氏はプロジェクトサイトを訪れ、20人の農民と二人のデモンストレーション農民を対象としたキノコ栽培のトレーニングコースを2日間開催しました。彼女は、収穫後乾燥したトウモロコシの茎を使用してボタンタケとヒラタケを栽培する方法を農民たちに教えました。

農民は研修の終わりにトレーニング修了証を受け取り、プロジェクトの新しいキノコデモンストレーション農民になります。他のメンバーは彼等からトレーニングを受けることができます。キノコは非常に価値の高い作物であり、狭いスペースで迅速かつ比較的簡単に栽培できますが、ほとんどのザンビア人は野生のキノコを収穫し、雨季の初めのみ、キノコを食べます。プロジェクトの次の段階は、農民がキノコから収入を得ることができるように販路を見つけることです。



トレーニング修了証



栽培されたキノコ

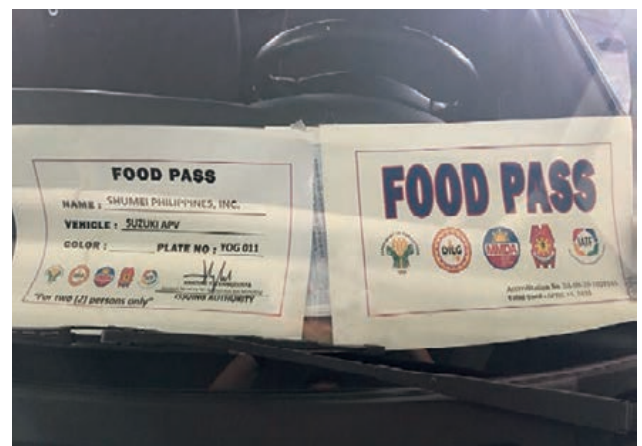




## コロナ禍の中、人々が本当の素晴らしいものを求めて

フィリピン自然農法担当 嶋 智美

秀明インターナショナルは、秀明自然農法を通じて、農業支援だけでなく、教育や生活の向上、文化の復興を目的とした開発途上国の支援に取り組んできました。2020年に世界を襲った新型コロナウイルスによるパンデミックの中、フィリピンでの秀明自然農法の活動をご紹介します。



フードパス (FOOD PASS)

### 新しい形で秀明自然農法を発信

新型コロナウイルス感染症の蔓延が世界的に深刻な状態となった2020年3月、フィリピンでは全域でロックダウン(都市封鎖)が施行されました。厳しい行動規制により、秀明自然農法の圃場への移動もできなくなり、まったく先の見通しがつかない状態でした。

そんな中、フィリピン政府から食料供給業者に対して、認可を受けた団体のみが食料の流通のために移動ができる





ロックダウンによって設けられた検問所

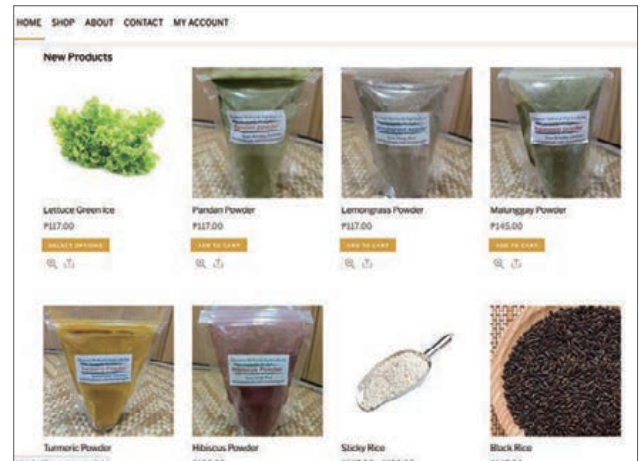
フードパス (FOOD PASS) という通行許可証が交付されることになりました。不思議とスムーズに Shumei にフードパスが認可され、どこにでも移動できるようになりました。自治体ごとに検問所が設けられ、軍や警察が見張り、一般車両は通過させない中、私たちは医療従事者と同じ行動の自由が与えられ、州を越えて移動することが許されました。フィリピン政府は、農業従事者を医療従事者と等しく、国民の命を守り、生活に必須な食料を供給する尊い人として大切にしています。このことで「秀明自然農法実施者・流通者も人々を支えている」という強い使命感を抱きました。

顔を合わせて販売するマーケットは一時休止とし、Facebook などのオンライン上で、今週はどのような作物が収穫できそうか、お知らせを始めることにしました。すると、たくさんの方から新規の方から購買申し込みがありました。支払いもオンライン上で済み、フィリピンの IT (情報技術) がコロナ禍を機に、一気に技術革新したように思います。

フィリピンでは新型コロナウイルスの感染症を恐れる人々が増える中、感染症対策に最も重要なのは食を通じて免疫を高めることという、今まで忘れられていた基本的な食生活が見直されるようになりました。多くの方々が、より健康で安心な食べ物を求めリサーチをし、秀明自然農法を見つけてくださっています。そして、今まではたまに自然農法の物を食べていた方が、毎食、自然農法の物を食べたいと、大量に購入されるようになりました。コロナ禍の影響で、食への意識が芽生えた方が増えていることは、コロナ禍が社会に与えている良い影響の一つだと思います。

90 歳を超えたある女性は、「秀明自然農法で栽培されたお茶のおかげで、コロナ禍も健康でいることができる」と感謝されていました。また代替医療の病院を営み、秀明自然農法のロセル(ハイビスカスの一種)を使った発酵飲料を作っている方は、患者さん向けに秀明自然農法で栽培された自然米も販売し、食からの健康を推進しています。

ベジタリアン料理のシェフとして活躍しているアーシャ・



オンラインでの販売



配達の様子

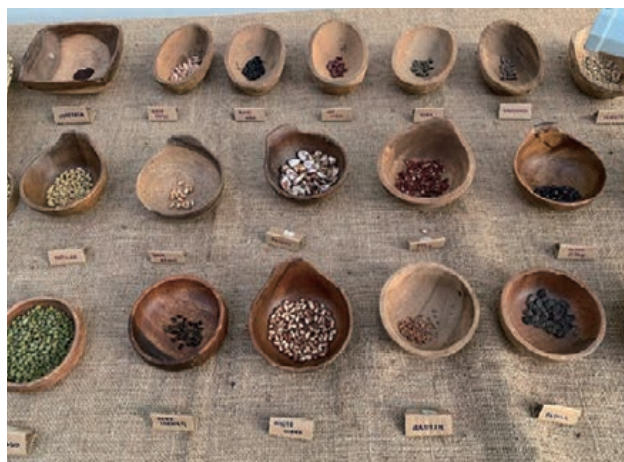
ペリさんは、コロナ禍が始まって以来、秀明自然農法で栽培された自然米を食べるようになり、自分の体に変化を感じたそうです。彼女は、若いころ虚弱体質であったため薬食料理を研究していました。そして食と農の関係を学びたいと意を決し、2 年間にわたって、インドのヴァンダナ・シヴァ博士が運営するナヴダーニヤ財団にて研修を受けました。現在はシヴァ博士から学んだ環境保全や持続可能な生活、また食育を普及したいと、食と農の学校を運営しています。そして自家採種を教え、在来種を守る活動もしています。

彼女は今まで宙にふらついていた心が、自然米を通じて大地とつながり、心と体が軽やかになったそうです。お米の一粒一粒に生命力を感じると表現しています。そして昨年より、アーシャさんはマニラ郊外の数ヘクタールの圃場近くに転居し、秀明自然農法を始め、そこで彼女の料理学校や食と農に関するワークショップを始めました。種について、また秀明自然農法のフィロソフィーである、「自然順応、自然尊重」の生き方を教えています。





アーシャ・ペリさん



アーシャさんの種



ナヴダーニャ財団のシードバンク

## アーシャ・ペリさんインタビュー

私は今まで最も体に良い食べ物を選んで食べてきました。`有機農法の植物や加工品のみを食し、栄養をいかに摂取するか`というよりも、`いかに生命力の高い食品を頂くか`が大事だと理解しています。自分自身に生命力があふれてこそ、地域への貢献をするエネルギーが湧き上がり、この世の中を良くすることができると信じています。

ナヴダーニャ農園では、種や土の叡智を学びました。全ての食は種が始まりであり、種は生命の象徴です。私たち人間自体も母なる大地から生まれた種のような存在です。

私はバタンガス州の圃場を購入し、小さな種から学んだ大きな学びを、未来を生み出し、次世代を育てるために、生徒たちに教えています。在来種には地球温暖化による気候変動に適応する力があり、人類を救うためには欠かせない存在であることを知っています。

私は秀明自然農法の作物にはエネルギーが込められているのを感じます。それは実施者が愛を込めて育てているからだと思います。私は、自然米が大好きです。赤米、黒米、ピンク米、紫米、もち米など異なる品種のお米の一粒一粒に、他にない味を感じます。またそれぞれ異なるエネルギーを感じます。これは他のお米には感じたことがないエネルギーです。私は意識の存在を信じてい

ます。自然に宿る精霊を信じています。自然環境にも意識があり、全ての生物には意識があり、ひいては地球が大きく息をするとき、生命力が生まれると感じます。それは活力を生み出します。実施者の祈りや愛から良いバイブレーションが生まれ、秀明自然農法のお米への生命力となっていると思います。

私は自然米のコレクターです。それぞれの品種ごとのユニーク性を感じるからです。この味のおいしさは、栄養という概念を超えています。私は今まで、調理学校として、炭水化物やたんぱく質、脂質や植物繊維などについて、栄養学の観点から教えてきました。しかし秀明自然農法に感じられる生命力というエネルギーは、栄養学を凌駕して、私たちの肉体の一部となり、生きていく活力を与えてくれていると感じます。実際に、私のみではなく、私の学校の生徒たちも同じように、自然米には特別なものがあると感じています。それで私の生徒たちも自然米を大量に購入するようになりました。

今の時代、人々は感染症におびえています。それは生命力を失っているからだと危惧しています。これは体力がないというのではなく、食べている食品に宿る霊気と





アーシャさんのワークショップ

もいえる生命力が失われているからだと思います。私たち現代人の生活環境、ライフスタイルは、自然から離れてしまったことにも起因しています。

ではどのようにして、この生命力を私たちの生活に取り戻したら良いのでしょうか。私は、そのためにキッチン活動として、各家庭の台所に、生命力あふれたものを取り戻すことを提唱しています。それはとてもシンプルなことです。秀明自然農法をはじめとする、本物の食べ物を選ぶことです。そして自然順応の生活をする事で、私たちの体は、真の健康体になっていくことでしょう。これこそが、現代が抱える世界的問題への解決法だと思います。

アーシャさんの生徒は、食の安全を啓蒙し、意識の高い購買層や地域に広めるために、フィリピンCSA<sup>(※1)</sup>として流通に励んでいます。

食べる人が増えることで、作る人も増えてきました。アーシャさんの活動に励まされ、タナイやポトランでは、実施者を目指す人が増えています。特に若い実施者が年老いた親の代わりに自然農法に励むようになりました。10代から30代の青年実施者が農業に未来を感じ、コロナ禍だからこそと、地域の人々の健康と幸せを願う生産者となっています。タナイファームのリーアン・イノセンシオさんの友人ベンマーさんは父親のロベルトさんと自然農法を始めました。ロベル

トさんは、それまで毎月のように脳梗塞の発作が起きていましたが、自然農法を始めて以来、まったく発作が起きていないと感謝しています。

秀明自然農法

実施者リーアン・イノセンシオさん

インタビュー



リーアン・イノセンシオさん

新型コロナウイルスによるパンデミックが突然始まり、人々にとって2020年はストレスが多い1年でした。誰一人パンデミックへの備えはしておらず、全ての世代の人にとって、初めての体験でした。





サンバレス州ボトーランの農家ラモン・デベラさん

私にとって、このパンデミックはウェイクアップコールとして、人々の目覚めを促すものだと思っています。果たして感染症を治すことはできるのか、人類にとって何をなすべきなのかが問われる新たな試練だと思います。

Shumei タナイファームの一員として、新鮮で健康的な野菜を、お客様にお届けできています。パンデミックはさらなる流通を促進し、そのおかげで、タナイの地元の農家や、先住民の農家に秀明自然農法を教え、新たな実施者が増えました。

秀明自然農法の実施者として、愛と調和と感謝の心を発信したいと心掛けています。私はタナイの地域の人々のために何ができるかを考え、コミュニティー・パントリーという食物配布を始めました。多くの方々が支援してくれています。これからも秀明自然農法の活動を通じて、人々の意識を高めていきたいです。

## フィリピンでの秀明自然農法の取り組み

フィリピンでは 1960 年に国際稲研究所 (IRRI) が設立され、本格的に緑の革命が始まりました。緑の革命では化学肥料や大量の農薬を投与され、環境汚染が問題となりました。また多くの地域で伝統的な農村文化を崩壊させることにもなりました。



秀明自然農法のフルーツと加工品

2004 年、サンバレス州で地元の慈善団体とのパートナーシップにて、食の安全と地域活性化を目的に、肥料も農薬も一切使用しない秀明自然農法のモデルファームが始まりました。フィリピンでは、大自然に精霊を感じ、母なる大地を敬う先住民の文化が根付いており、山村部では今も自然順応な生き方をしている集落があります。

2006 年から、サンバレス州のボトーランにて、稲作農家のラモン・デベラさんを中心に、自然を愛し尊重する農民たちが、秀明自然農法を始めました。現在、120 人以上の実施者がいます。フィリピンの気候に合った作物を栽培しています。米やゴマ。またサツマイモ、サトイモ、キャッサバな





今年より自然農法を始めた青年実施者ベンマーさん



テンプルヒル・インターナショナル・スクールの学生たち

どのイモ類。キュウリや、ユウガオ、ヘチマ、カボチャ、メロンなどの瓜類。果物は、アボカド、パパイヤ、パイナップル、マンゴー、バナナなど、種々の品種があります。自然農法の果物は慣行農法に比べ、皮が薄いのが特徴です。

ラモン・デベラさんの田んぼは、フィリピンの慣行農家の平均収量よりも15%ほど収量が多く、自然農法の豊かな実りを証明しています。ウンカなどの害虫はラモンさんの<sup>もみ</sup>の刈は固くてかむことができず、ウンカによる被害はまったくなく、天災にも害虫にも強いと評判です。

同じく2006年より、テンプルヒル・インターナショナル・スクールにて、学校農園が始まりました。秀明自然農法で作



当時の新聞記事

物を育てることで、自然が持つ癒やしの力によって、思春期で不安定な心の生徒たちの内面が成長していくのを感じています。2009年9月、台風の直撃を受け、キャンパス内の田んぼは1mの高さに浸水したのが、水が引いたあとは稲の茎が何もなかったかのようにしっかり立っていたことで、奇跡の田んぼとして、当時の新聞に紹介されました。<sup>(※2)</sup>

2010年から、ネグロス島にてサトウキビ栽培が始まり、秀明自然農法の黒糖が作られています。ネグロス島では、ココナッツオイル作りもしています。

2013年よりリサール州のタナイにて、アースデイ・ネットワーク・フィリピンという環境団体から圃場を無償で提供してい





リサール州タナイファームの農家のみなさん

ただき、マニラ近郊のモデルファームとして、タナイファームが始まりました。山間の涼しい気候から、モロヘイヤ、チンゲン菜などの葉物野菜や、ターメリックなどの根菜類、またパッションフルーツなどのつる性の果物が栽培可能です。またハイビスカスの一種であるロセルは、地元の名産品として、地域活性化を兼ねて、ロセル栽培を推進しています。リサール州では、15人ほどの近隣の農家や先住民の方々が、秀明自然農法を実施するようになりました。

フィリピンは、台風の通過国であり災害大国ですが、秀明自然農法のサトウキビは、根が一般の物より深く広がっており、台風の強風を耐え、倒れてもすぐに起き上がることから生命力の高さを感じます。作物は、健康志向の方々に向けて、マニラ首都圏にて流通しています。

## 同じ志を持つ団体と手を取り合って

Shumei タナイファームを貸していただいている環境団体アースデイ・ネットワーク・フィリピンは、フィリピン全土の環境保護、持続可能なライフスタイルを目指しています。この団体は、地域住民に信頼があるため、安心して初めての方が買い物にいられています。世界が平和で健康で幸せであることを願う、同じ志を持つ団体と手を取り合っていくことに、新しい時代の在り方があるのかもしれません。コロナ禍



秀明自然農法のロセル

という試練が、人間が地球と共生していくために大切なことを、日々教えてくれているように感じます。生きとし生ける全ての存在への愛と感謝を込めて、フィリピンで秀明自然農法に取り組んでいきます。

※1 CSAとは、Community Supported Agricultureの略、「地域が支援する農業」と訳される。地域の消費者が、地域の特定農家から、直接、定期的に購入する仕組み。

※2 2009年9月に発生した台風オンドイは、フィリピン全土を横断しマニラでは6時間で9月の月間降水量に匹敵する雨量を記録し、首都圏の8割近くが冠水した。





秀明太鼓メンバーの世界平和の祈りを込めた迫力ある演奏

## オックスフォード・リアル・ファーマーミング・カンファレンスで秀明自然農法を発信

2021年1月、イギリスのオックスフォードで開催された農業会議（オックスフォード・リアル・ファーマーミング・カンファレンス）に参加しました。この会議は「本物の農業とは何かを追求し、その理解を深め、自然環境に配慮した農業を基盤とした生活圏の基盤の構築」を目指しており、本年は新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの開催となりました。それによって開催規模・参加人数の制限がなくなり、1月7日から13日まで7日間の開催となり、世界75カ国から5000以上の個人または団体、そしてヴァンダナ・シヴァ博士など著名な活動家や研究者もオンラインで参加することができました。

今回、主催者より会議のオープニングセレモニーとして、秀明太鼓の演奏をしてほしいと依頼がありました。新型コロナウイルスの影響で秀明太鼓メンバーの渡航が不可能なため、秀明インターナショナルの活動拠点である滋賀県での生演奏をライブ配信することになりました。

1月7日、イギリスでの会議の開始時間は日本時間では午後9時。秀明太鼓メンバーの世界平和の祈りを込めた迫力ある演奏に、世界中の視聴者から称賛のコメントや、メッセージをたくさん頂きました。



OXFORD  
**REAL**  
FARMING  
CONFERENCE

最終日の13日に行われたセッションでは、持続可能な農業である秀明自然農法とそのモデル圃場「しがらきの里」を紹介するビデオを配信したのち、「自然農法活動 生物多様性の回復と種の保存」と題し、秀明自然農法ネットワークの調査研究員の酒井賢治さんとフードコーディネーターで秀明自然農法の生産者代表として滋賀県東近江市の白木桃子さんが発表、その後質疑応答を行いました。

終了時間を過ぎた後も、多くの人からコメントを頂き、世界の多くの方の自然農法への興味が高まった有意義なセッションとなりました。





秀明自然農法「しがらきの里」

## ーセッションー

# 秀明自然農法から見える生物多様性

秀明自然農法ネットワーク 酒井 賢治

### 酒井賢治プロフィール

秀明自然農法ネットワークにて自然農法の普及のための実践、調査、研究と、生き物調査を通して自然農法の生物多様性の見える化に取り組む。

国内、海外（フィリピン、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ）で活動。

2003年より5年間、アメリカ、コロラド州にて高地砂漠にて自然農法モデル圃場を実践。2016年よりタンザニアにてさくら女子中学校開校時より自然農法サポートを行う。



私は福井県の田舎で育ちました。田んぼに囲まれた環境で、カエルやトンボがたくさんいて、子どもの頃はいつも虫捕りをして楽しく過ごしました。現在、それらの生き物たちは、私の田舎ではほとんど見かけなくなり、大変残念に思っています。一方、私が実践している秀明自然農法の田畑では、多くの生き物たちがあふれる自然本来の姿を取り戻し、環境を癒やしてくれています。

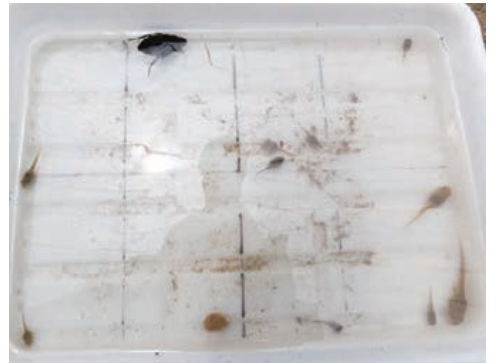
私が働いている「しがらきの里」は、滋賀県の自然豊かな場所にあります。圃場周りの環境は「里山」といわれています。山、川、林、草地、池があり、しかも山は人工林ではなく自然林が残っています。里山では人々の暮らしの中で自然を適度に管理することで、多くの生き物たちが生息しています。

このモデル圃場では20年以上前から秀明自然農法に取り組んでいます。水田4.5ha（11エーカー）、畑1ha（2.47エーカー）、野菜は50品種作っています。自然農法の特徴として、土の持っている力を尊重して化学肥料、<sup>きゅうひ</sup> 厩肥、農薬は使いません。そして全ての作物は自家採種をしています。同じ場所で自家採種を続けることで、丈夫で病害虫被害を受けにくい作物が収穫できています。毎年種を購入する慣行農法とは違って、自家採種は命をつなぐ活動です。





生き物調査



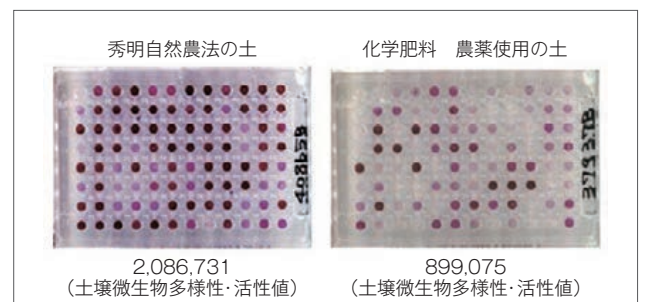
## 絶滅危惧種が生息している自然農法水田

10 年前より水田の生き物調査をしています。以前調査したときには 3 時間の調査で約 100 種類の生き物たちが確認できました。動物調査は滋賀大学、京都大学大学院 地球学堂の研究生が、植物調査は国の農村工学研究機構の調査員が調べました。

現在、これらの植物調査のデータは、滋賀県立琵琶湖博物館で展示されています。「しがらきの里」の水田の生物多様性は日本国内でトップクラスです。絶滅危惧種の動物 8 種、植物 6 種が確認されました。

「しがらきの里」にはニホンミツバチも多く生息しています。日本でも在来のニホンミツバチが減少しています。ニホンミツバチが安心して暮らせる豊かな環境であるといえます。ミツバチは受粉を助けてくれるので大切な生き物です。

日本はモンスーン気候で雨が多い時期を利用して大昔から稲作が盛んでした。田んぼは、一時的な湿地の役割を果たし、春になると多くの生き物たちが田んぼに水が入るのを待っています。しかし現代の日本の稲作は人間の都合で梅雨の 1 か月前から田植えをします。肥料を使うことで土中が酸素不足になります。稲の生育に酸素が必要ですから、根に酸素を入れるために水を落として田んぼを乾かします。すると水の中で生きていた多くのオタマジャクシやヤゴたちが死んでしまいます。自然農法の水田は自然のリズムに合った農法ですから、昔ながらの梅雨の時期に田植えを始めます。



提供：DGC テクノロジー

## 土壌微生物の多様性が高い秀明自然農法圃場

自然農法で栽培している土は土壌微生物の多様性も高いです。土壌微生物多様性を数値化するため DGC 総合研究所 (現 DGC テクノロジー) に調査してもらいました。一つのプレートの小さい穴に、一つずつ微生物の餌となる種類の違う有機物が入っています。微生物が食べると紫色に発色し、土の中の微生物の多様性が目視できます。つまり、微生物によって分解できる有機物の種類は異なっていますので、たくさんの種類の有機物が分解できたということは、たくさんの種類の微生物がいるということになります。また、有機物の分解速度が速いということは、それだけ微生物が活発に働いているということになります。

実験結果により慣行農法の土よりも自然農法の土の方が微生物の多様性が高いことが分かります。以上のような





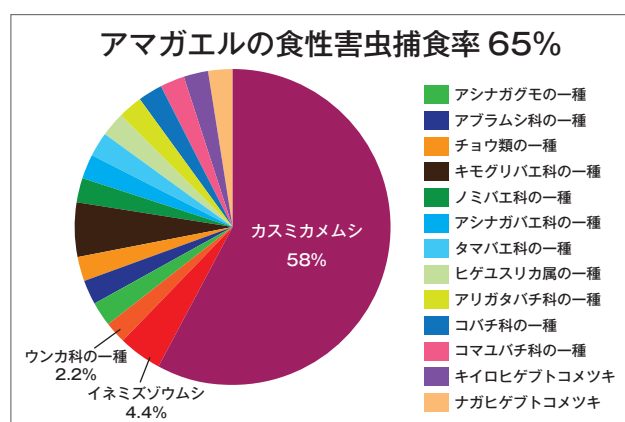
田んぼ一面にクモの巣



アマガエル

結果において、さまざまな生き物たちとのつながりを保つことができる貴重な農法であるといえます。それだけではなく、多くの生き物たちは自然農法をサポートしてくれています。

自然農法の水田でアマガエルが何を食べているか、胃の中の内容物を吐き出させて調べたところ、捕食された虫たちの65%が、稲にとっての害虫でした。(グラフ1) これは(写真左上)水田の朝の様子ですが、朝露でクモの巣が白くなっています。多くのクモが住んでいて、害虫を食べてくれます。このことでも私たちは農薬を使わずに済むことが分かります。昨年は世界的にサバクトビバッタの被害が深刻でした。日本でもアジアから偏西風に乗って多くのウンカが飛来し、大きな被害が出ました。これ(写真右下)は自然農法と慣行農法が隣接している圃場ですが、自然農法に長年取り組んでいる圃場だけ被害に遭いませんでした。不思議に思うかもしれませんがこれは事実です。自然農法で育てることで、作物が丈夫になり生態系も豊かになります。私は自然農法こそ母なる大地が健康になる農法だと思います。私たちの足元の生き物たちに耳を傾けることは地球に耳を傾けることだと思います。問題解決の答えはそこにあると思います。もっと生き物たちに耳を傾けましょう。



グラフ 1

アマガエルの捕食図 (NPO 田んぼ)



ウンカ被害の比較：赤枠内は秀明自然農法、それ以外は慣行農法





## 農業の魅力を伝えたい

### 白木桃子さんインタビュー

#### プロフィール

滋賀県東近江市で秀明自然農法での米づくりに取り組む。農林水産省が推進する農業女子プロジェクトへの参加の他、2018年、滋賀県内で農業に携わる女性を応援する「しが農業女子100人プロジェクト」の立ち上げメンバーとして活動をスタート。生産者と消費者のつながりの場を増やすべく現在もプロジェクトや自身のSNSを通して、米づくりを中心とした農業の魅力を伝え続けている。

#### フードコーディネーターとはどのような仕事でしょうか？

食の開発や演出をする仕事です。具体的には商品のマーケティングやレシピの開発、パーティーやイベントなどに料理を提供するケータリングの依頼を受けることもあります。これまでにたくさんのレシピ開発を行い、そのレシピを使って料理教室を開いたこともあります。

#### 自然農法を始めたきっかけは？

農家に生まれ育った私は、幼い頃から母が懸命に農業に励む姿を見てきました。私が10歳の時に父が他界してから、母は女手一つで私たち兄妹を育ててくれましたので、恩返しのつもりで自然農法に携わる決心をしましたが、農家になる



ミニ焼きおにぎり

勇気はなく、食材の魅力を伝えられる料理の仕事を始めました。ところが、あるときお客様に料理を提供した際、この食材がどこから来て、どのように作られたのかなどを聞かれることがあり、詳しく答えることができませんでした。その経験から食材の魅力を伝えるには、食材の背景を知ることが大切だと気づき、母の下で真剣に農業を学びたいと思うようになりました。就農してから、稲が実っていく一連の流れが、まるで稲に赤ちゃんができたようで大変感動しました。それはお米に命が宿る瞬間を見たような思いでした。

秀明自然農法は農業の芸術であることを実感しました。そして母の田んぼにかけける手間暇の意味、秀明自然農法やお米に対する思いを知って、これまで母が築いてきたものを私も守っていきたいと思うようになりました。今では美しい自然と理解のある家族に囲まれてとても幸せな生活を送っています。

#### 日本の農業は高齢化が進んでいますが、もっと若い人が農業に興味を持つにはどうしたら良いでしょうか？

最近では、食に対する意識の高い人が増えてきていると感じる一方、若い人たちは普段口にする食材の背景をほとんど知らないように思います。やはり食育というのは重要です。本当に体に良いものがどういうものかを知ってもらい、農業の素晴らしさを食を通して感じてもらいたいと思います。いまだに農業のイメージはよくありませんが、農業は本当はカッコよくて、やりがいのあるとても素晴らしい仕事だということをもっと発信していけたらと思います。

私が行っている秀明自然農法は自然をよく観察して、自然から学ぶ農法です。ただ作物を生産する農業ではなく、環境に配慮する農法で、そのことは地球の未来のためにと







でも重要なことだと思います。自分のことばかり考えて農業をしていると、長くは続きません。そして、そこに農業の未来はないと思います。

清らかで安心安全な食材、お米を求めている人がたくさんいらっしゃる、そのような消費者の方の存在は、自然農法を実施する生産者にとってとても励みになります。今、ソーシャルメディアが躍進する中、気候変動など環境問題についてさまざまな発信がされています。若い人に、環境のこと、食材のこと、地球のことをもっと考えるきっかけづくりができればと思っています。

### しが農業女子100人プロジェクトを立ち上げられた経緯や活動を教えてください。

現在、日本の女性の農業人口というのは男性に比べると少ないのですが、私の住む滋賀県の身の回りには、同じような志を持った女性農家が数多くいました。初めは少人数で“農業女子会をして”情報交換や交流をするだけだったのですが、団体発起人の“魅力のある人材が増えると魅力のある商品やサービスが生まれる。地方が輝くには魅力のある人材が必要”という言葉がきっかけで2018年に「しが農業女子100人プロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトは「農業を通じて、おいしい楽しいを分かち合う社会をつくります」をモットーに、滋賀県で農業を営



む女性が、栽培から商品開発、販売に至るあらゆる面で協力できるネットワークをつくることを目指しています。そして新規就農したいという女性が現れたときに「しが農業女子100人プロジェクトがあるから安心して農業ができる」としてもらえる団体になることを目標に活動しています。



しが農業女子100人  
プロジェクトのウェブサイト

### 若い人たちにメッセージをお願いします。

とにかく農業の素晴らしさを知ってほしいです。実際に農業をやってみると大変だけど楽しく、想像していた以上に毎日が充実して私の人生が豊かになりました。農と食を未来につないでいくために必要なことは、原点に返ることです。原点とは消費者、生産者と呼ぶことのない、自分の食べる物は自分で作ってきたライフスタイルのことです。自給自足をしながら自然とつながり、美に囲まれて生活することは、私たちの人生を豊かにします。自然とかけ離れた生活を見直し、まずは家庭菜園からでもいいので土に触れてみませんか。





## 参加者からのQ&A—— 進行担当：秀明インターナショナル理事 アリス・カニングハム

### Q1. 何人くらいの秀明自然農法農家の方がいて、どのくらいの土地の規模でされているのでしょうか？

酒井：日本では約5,000人の秀明自然農法実施者がいます。その中には小規模でされている方、家庭菜園として取り組まれている方も含まれています。規模としては、900ha程です。

### Q2. 自然のサイクルに順応し農業することは良いことですが、気候変動で異常気象が増えていることについてどう考えますか？

アリス：自然農法をしていると気候の変化をより感じやすいと聞きます。何人かの実施者は「自然をよく観察していると、自然界のバランスがよく分かるようになる」と言っています。つまりバランスが崩れているときというのは、自然のサイクルが壊れているということです。そして砂漠化などいろいろな問題が起こります。気候に関する全ての問題に対して、どこに原因があるのかに気付くことが非常に大事だと思います。その上で、私たちが行動することで生物多様性の保全につながって、天気や気候の異常が起こりにくくなると思いますが、いかがですか？

酒井：秀明自然農法は土に肥料を入れないので、作物自体が持つ力で成長します。根張りが強く、また根が深くなり、強靱<sup>きょうじん</sup>で健康な作物になります。大きな台風が来たとしても、耐えることができます。また秀明自然農法のコンセプトである自家採種<sup>自家採種</sup>をすることで、その地域の在来種の種子が、その土地の特性を記憶し、適応しながら循環していきます。つまり、種と土が共に働き合うことで、さまざまな変化にも適応でき、気候の変化にも対応できると考えています。私も日本で気候の異変を実際に感じていますが、秀明自然農法では厳しい状況の中でも収穫を得られています。

白木：そもそも人間は、農業をする上で、気候に合わせてきたはずなのですが、いつの頃からか、人間の都合に合わせてようになっていきました。気候変動は、現代のほとんどの農業が自然のサイクルを破壊していることが原因の一つだと思います。実際に農家としても本当に激しく気候が変わってきたと感じています。気候変動は現代の人間の行いが大きな原因になっていると思います。







**Q3. 輪作をしないで肥沃さを維持することについて教えてください**

酒井：秀明自然農法では連作を推進しています。同じ土地に同じ作物を毎年作ります。先ほども言いましたが、種と土が共に働き合うことで実際、土が豊かになっていくのを感じています。大事なことは土の状態をよく見て、耕し具合を判断することです。耕し過ぎたり、深く掘り過ぎてしまうと、土の中の微生物の邪魔をしてしまうことがあります。土が持っている本来の力を生かすことが非常に大事です。実際、自然界では毎年同じ場所に同じ種が落ち、それが育っているわけですから、連作は自然の理にかなっていると思います。

**Q4. 都会に住む若い人たちにはどのようなメッセージを伝えられていますか？**

白木：驚かれるかもしれませんが、私の経験からいうと、農業に関心がある人は田舎より都会の方がずっと多いんです。都会に住んでいる方は質の高いものを求められる方やSDGsに貢献したいと思って購入される方が結構多いと思います。興味や好奇心でも購入いただいた方においしいと感じてもらい、自然環境や農業に対して意識が変わるきっかけになってくれたらと願っています。実際、うちの農園のお米の注文も東京をはじめ都市部の方からも注文を頂きます。やはり良いものを作って、提供させていただくことが重要だと思っています。

酒井：「しがらきの里」で田んぼの生き物調査を実施し、多くの都会の子どもたちも参加してくれています。田んぼに入ることによって子どもたちは自然とつながることができます。そういった機会をこちらが設けることで、子どもたちが自然に触れることができ、虫たちや自然の空気を感じ、とても喜んでいる姿を見つめます。子どもにそういった機会を与えて、教育することで、その子たちが親になったときに自分の子どもに伝え、また受け継がれていく、そういった流れがとても大切だと思います。

**Q5. 水稲栽培のメタンガス排出についてどう考えますか？**

酒井：一般的にメタンガスは炭酸ガスの20倍、温室効果に影響があると言われており、農業が一つの大きな要因であると注目されています。肥料を施すことで有機肥料の分解に酸素が消費され、土の中が酸素不足となり、嫌気性細菌であるメタン生成菌の活動が活発になり、メタンガスを発生させます。肥料を使う慣行農業と違い、秀明自然農法の田んぼでは一切肥料を使用しませんので、慣行農法よりもはるかにメタンガスの排出は少ないです。また秀明自然農法の土の中にはさまざまな微生物がいて、メタンガスを食べる微生物もいますので、土の中が健全である秀明自然農法の田んぼはガスの臭いもありません。

**最後に**

アリス：自然農法が最も重視していることは自然とのつながり、自然のリズムを理解することです。そのためには自然を観察することがとても重要です。作物を育てるために必要な知識は全て自然が教えてくれるのです。ですから、実施者は自身の田畑の状態を観察し、その地域にあった育て方を選択していく必要があります。最初自然農法に移行すると、すぐには良い結果が出ないかもしれません。なぜなら、土壌も作物も今まで肥料に頼っていたため、最初は土や作物そのものの力が弱いのです。けれども、自然農法を続けることで、土壌の微生物が増え、肥沃な土、健全な土壌構造ができあがります。また作物も肥料に頼ることなく土壌から必要な養分を吸収して成長します。自然農法で育てられた作物の質は年々向上し、その収穫量も増えます。毎年自家採種をすることで、その土地の気候に適した健康な作物が育ちます。虫害や病気の影響を受けることも減り、台風などの風水害にも強い耐久性をもった作物が育ちます。たとえ台風などで一旦倒れた稲なども土壌深く張った根のおかげでまた自力で立ち上がることができます。ですから、気候変動によって作物を育てる環境が厳しくなっている今日、まさに求められているのが自然農法なのではないでしょうか。自然農法は、自然から学び、自然との調和を求める心を育む農法なのです。





# 震災10年の追悼と鎮魂、そして被災地から 感謝と祈りの音を世界へ

秀明太鼓 復興支援コンサート in 釜石市・大槌町

秀明岩手ボランティア担当 多田 立伊

「みんなの心が一つになることで、どんなことも可能となり、  
明るい未来を切り開いていく、その力を音にこめて -開鼓-」

「この光の音が、ここ釜石・大槌から世界に広がり、  
みんなが平和で幸せになりますようにと、祈りをこめて -楽念雷鳴-」

(コンサート演奏曲紹介文より抜粋)



2021 年は、東日本大震災から 10 年がたつ節目の年になります。10 年前、私は自分の住むこの岩手の地に起きた未曾有の災害を目の当たりにして、`どこまでできるか分からないが、震災復興のボランティアに尽力しよう`と決心しました。あれから 10 年、秀明岩手ボランティアを地道に継続する中で、つながりを持った多くの方々から喜びや悲しみ、成功と失敗を学ぶ日々を送ってきました。ボランティアからつながった方々が Shumei の活動を理解してくださったことが、この「秀明太鼓 復興支援コンサート」が実現した要因の一つになっています。

今回の秀明太鼓復興支援コンサートに当たり、二つのテーマを掲げました。一つは震災 10 年の節目となる「追悼と鎮魂」、もう一つは「感謝と祈りの音を世界に」というテーマです。ボランティアを通じて多くの人とつながり、共に活動していく中で釜石市、大槌町の被災者の方々、また被災者とその地域をサポートするため、日本各地から集まった心ある人たちは、今も犠牲者の魂に対し思いを寄せて祈り、そして震災

のときに助けていただいたご恩に対し、心からの感謝を伝えたいと思っています。それも日本だけではなく世界の人たちに、という思いを持っていることが伝わってきました。その思いを共有させていただき、目に見えない太鼓の音に祈りをのせて世界にみんなの感謝の祈りの心が伝わることを願い、この二つのテーマとしました。

当初 11 月 13 日の釜石会場がなかなか決まらず、地元の協力者の女性に事情を相談しました。彼女は今回の演奏の意義を理解してくださり、彼女の「この秀明太鼓の祈りの音



釜石会場 うのすまい・トモス





は、祈りの場所がふさわしい」との一言から会場の選定がスムーズに運んでいきました。そこは釜石市全体で震災津波の約半数の犠牲者がでた、釜石市鶴住居町にある「うのすまい・トモス」という新設された復興施設の中の「祈りのパーク」という追悼施設の前広場でした。また、14日の大槌会場は、大槌町役場のご協力を頂いて、震災当時2,000人以上もの人が寄り添い続け、町内で一番大きな避難所となった「大槌町中央公民館」に決まりました。まさに両会場とも、鎮魂と祈りの音が広がるにふさわしい場所となりました。

今回の震災10年の秀明太鼓復興支援コンサートに当たり、ずっと協力者として演奏に参加してくださっている、大槌町出身で自身も被災者であるミュージシャン、大久保正人氏おおくぼ まさとの「この地に住む者として、この10年の鎮魂と未来に向けての演奏には大きな意義があります」との真剣な言葉に、今回の演奏に対し改めて気持ちが引き締まりました。

そして迎えたコンサート当日、秀明太鼓のリーダーであり、岩手出身の若林重之さんしげゆきは最初の挨拶で、当時実家と家に住むお母さんが被災したことを話し、故郷岩手への思いを熱く語られたその言葉は同じ故郷をもつ参加者の胸を打ちました。若林さんは演奏後の感想として「いつもコンサートが終わると、一つ二つああすればよかった、ということが頭に浮かぶのですが、今回の釜石、大槌のコンサートは本当に満足のいく内容でした」と話してくれました。

12人の演奏者一人ひとりが真剣に、時に穏やかに一打一音に祈りを込めた演奏は、参加者の心を揺さぶり、明日への生きる力となったことでしょう。



尺八奏者 大久保正人氏（左）

以下、来場した方々の感想です。

- ・太鼓の音を聞き、今日が心の復興の初日なんだ！と感じました。
- ・神の声を聴くような感覚を覚え、優しくもあり厳しい調べに涙が流れてきました。
- ・大槌より本当の心の復興が始まっていく記念日となるコンサートでした。
- ・最初の一打から涙があふれてきました。迫力の中にも皆さんの祈り、平和への願い、愛が伝わってきました。
- ・みんなで心をつにし、無心に心を込めながらの演奏に涙があふれてきました。胸に刻んで帰ります。この音は世界に広がったことでしょう。
- ・宇宙からエネルギーを頂いた感じ。大きな力強い音の中で無心になり、前向きに生きて頑張れる力が湧いてきました。この音はコロナに負けない！

最後に、大久保正人氏、会場スタッフ、現地でサポートしてくださった地元の方々、そして多くの参加者の皆さまに心より感謝いたします。ボランティアを通じて、人に恵まれていることが自分の宝物と感じています。これからも Shumei につながる方々と協力し合い、感謝と奉仕の心を忘れず社会に貢献し、喜びやつらさとともに日々を懸命に生きてきた人たちに寄り添いながら共に一歩ずつ心の復興の道を進んでいきます。









